九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ライフコースからみた乳幼児をもつ母親の育児負担感に関する臨床心理学的研究

宮本, 純子

https://doi.org/10.15017/1398270

出版情報：Kyushu University, 2013, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

（様式８）

氏　　名　：　宮　本　純　子

論文題名　：　ライフコースからみた乳幼児をもつ母親の育児負担感に関する臨床心理学的研究

区　　分　：　甲

博　士　論　文　の　要　約

本論文では，乳幼児をもつ母親の育児負担感についてライフコースから捉えることにより，今日の母親の育児感情の理解や育児支援の援助の視点をより適切に把握することを試みた。ライフコースによる育児負担感の違いや育児負担感軽減に繋がる要因を計量的調査から検討し，さらに面接調査においてライフコース決定の文脈に納得しているか否かという視点から面接協力者を６事例ずつ取り上げ，育児負担感や母親へのサポート，時間的展望の確立について論じたものである。選択したライフコースの納得の程度がその後の育児への感情や時間的展望の確立に影響を与えていることが示唆された。

第Ⅰ章「女性の多様な生き方と育児負担感」では，乳幼児をもつ母親の意識を捉える概念として，育児が「自己実現」を妨げる負担なものとし認識されている可能性を考え、育児不安を含めた包括的な概念として育児負担感を取り上げた。また，多様な生き方が可能になった今日の女性にもたらされた問題として，理想のライフコースをとれないことによる不安や母親の役割だけでは自己のアイデンティティを支えきれない問題を指摘し，このような育児期の女性の問題は今日の母親の育児負担感に影響を与えている可能性を述べた。さらにアイデンティティに関連する時間的展望，性役割態度，自己決定感という概念を取り上げ，育児負担感との関連について検討することを述べ，本研究全体の目的と構成について整理した。

第Ⅱ章「ライフコースからみた育児負担感」では，育児負担感尺度の作成とライフコースからみた乳幼児をもつ母親の育児負担感の検討を行った。育児負担感尺度の作成からは，“閉塞感・犠牲感”“疲労感”“自信なさ”“離反願望”の４因子から育児負担感が捉えられることが示された。ライフコースからの検討では，就業継続型，再就職型（すでに就業している），専業主婦型（今後もずっと専業主婦の予定），再就職希望型（育児が一段落してから就業希望）の四つのライフコースを設定した。就業継続型や再就職型の母親は疲労感が高いが，閉塞感・犠牲感は専業主婦型や再就職希望型の母親より低く，働いている母親は忙しく疲れているが，仕事を通して社会と繋がり，閉塞感や犠牲感は低いという結果になり，仕事をもっている女性の特徴が現われた結果になった。また，再就職希望型と就業継続型が育児への自信なさが低く離反願望も低いという結果を示し，仕事への継続性や一度離職しても継続しようという意志が育児期の母親の育児感情に影響を与えているのではないかと推察された。一方，再就職という形で同じように仕事を継続させている再就職型は，仕事をしているにも関わらず育児への自信なさや離反願望が高かった。不本意に仕事をしている可能性が考えられ，抱えている葛藤も高いことが予想された。

第Ⅲ章「乳幼児をもつ母親のアイデンティティと育児負担感」では，アイデンティティの統合の状態と育児負担感の関連をライフコース別に検討し，すべてのライフコースにおいてアイデンティティが統合されずに拡散している状態は育児負担感が高く，アイデンティティの確立が育児負担感

を軽減することが示唆された。一方，アイデンティティ達成地位の母親が必ずしも早期達成地位の母親に比べ，育児負担感が低いわけではないことも示され，アイデンティティが達成したがゆえに「自分の生き方を大切にすること」と「子育てをすること」の葛藤が高い可能性もあると考察した。

第Ⅳ章「乳幼児をもつ母親の時間的展望と育児負担感」では，アイデンティティの確立に必要な時間的展望を取り上げ，ライフコースから検討した。就業継続型が，現在の充実感，将来の目標指向性，過去の受容，将来の希望の得点すべてが他のライフコースより高かった。また，就業継続型が希望したライフコースと不一致の場合には，一致の場合と比べると将来の目標得点が有意に低くなることが示されたため，目標を意識して高くもつことの重要性が示唆された。ライフコースごとに時間的展望と希望のライフコース一致不一致から育児負担感を検討したところ，過去を受容し，将来の見通しをもてることは，すべてのライフコースにおいて育児負担感を軽減することが示唆された一方で，再就職希望型の場合，希望のライフコースと一致していなくとも，過去を肯定的に受け止めることにより，希望のライフコースと一致した母親より閉塞感・犠牲感を軽減することが示され，ライフコースによる特徴を把握する重要性が示唆された。

第Ⅴ章「アイデンティティ統合に関わる要因が時間的展望と育児負担感に及ぼす影響」では，アイデンティティ統合に関わる要因として性役割態度と自己決定感を取り上げ，この二つが時間的展望と育児負担感に及ぼしている影響をライフコース別にそれぞれ検討した。性役割態度は育児負担感には直接的な影響を及ぼさず，時間的展望を介して育児負担感に影響を及ぼしていた。その及ぼし方はライフコースによって違いがあることも示された。また，すべてのライフコースにおいて充実感を高めることが育児負担感軽減に繋がることが示された。健康な母親には，自分自身と向き合い，充実した生活を送ることは自身にとってどういうことなのか考える時間を持つことを提供することも重要であることが示唆された。また，自己決定感が時間的展望や育児負担感に及ぼす影響もライフコースによって違うことが示された。専業主婦型や再就職型において自己決定感は育児への自信なさ，閉塞感・犠牲感を軽減したが，就業継続型や再就職希望型においては離反願望，閉塞感・犠牲感，疲労感を高める危険性も示唆された。しかし，すべてのライフコースにおいて自己決定欲求と自己決定感のズレを小さくすることが充実感を高めることも示され，育児期の母親がどのような文脈の中で自己決定しているのかに着目する必要があることが提案された。

第Ⅵ章「ライフコースの文脈からみた母親の育児負担感」では，面接協力者 12 名を希望と現実のライフコース一致・不一致に分けてそれぞれ 6 事例ずつ，ライフコース決定の文脈，妊娠から現在までの生活と葛藤，サポート，育児の捉え方，自分の過去・現在・未来の中での育児期の捉え方について考察した。結果，質問紙調査における希望したライフコースの一致不一致は，就業形態の一致不一致を表しているため，必ずしも母親が納得したライフコースか否かには繋がらないことが示された。また，希望したライフコースと不一致でも，その選択に意味を見出せた場合や自分をセルフコントールして納得した日常生活を送ることができた場合は，育児負担感が低いことが示された。ライフコースの決定に納得していた母親は，夫や自分の母親からのサポートが多いと認知し，地域との関わりも積極的であるという特徴がみられた。また，育児の捉え方もポジティブで，自分の親との関係を含めて今までの体験が反映されており，現在という空間の中に自分自身が子どもだった頃の親の姿が存在していた。また，子どもの将来，自分の将来も見つめており，過去から未来への広がりが見られるという特徴が示された。

以上の研究結果を踏まえ，第Ⅶ章「総括」では育児負担感の理解とその軽減についてまとめ，四つのライフコースとライフコース決定の文脈ごとにその特徴の考察を行った。最後にライフコースに応じた援助法の検討，再就職に至る過程の詳細な把握と支援の検討，希望したライフコースでないにも関わらず克服して生きている事例の検討を今後の課題としてあげた。